



なぞなぞ
ウォーキング
2

かつての川

～次大夫堀～

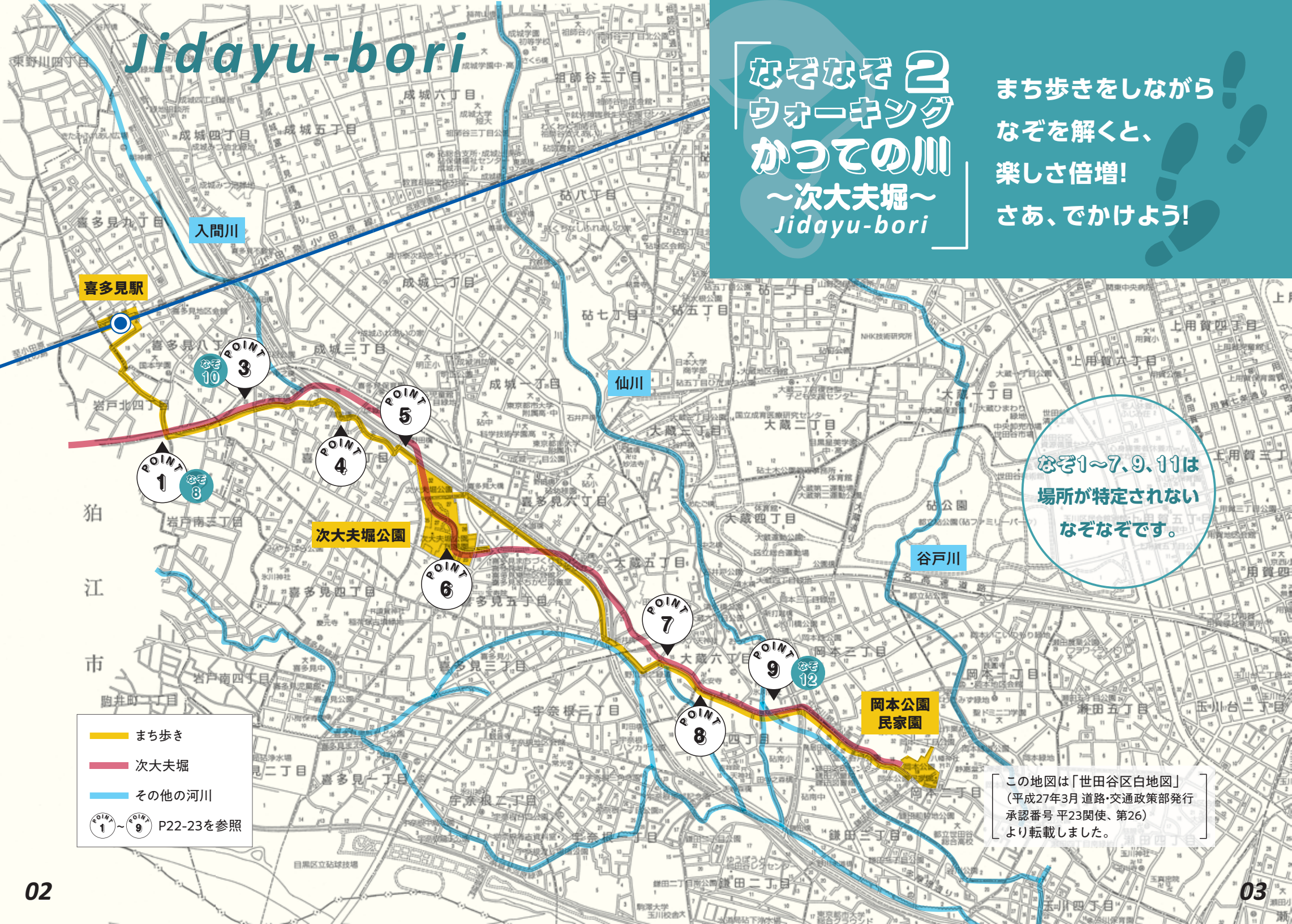
Jidayu-bori

かつての川、次大夫堀沿いをウォーキングしながら、
なぞなぞに答えよう！
なぞの答えの中に隠れているキーワードをつなぎ
あわせると、ミッションが浮き出てくるよ！

Jidayu-bori

なぜなぜ2
ウォーキング
かつての川
～次大夫堀～
Jidayu-bori

まち歩きをしながら
なぜを解くと、
楽しさ倍増！
さあ、でかけよう！



なぜ1～7、9、11は
場所が特定されない
なぜなぜです。

- まち歩き
- 次大夫堀
- その他の河川
- POINT 1～9 P22-23を参照

この地図は「世田谷区白地図」
(平成27年3月 道路・交通政策部発行
承認番号 平23関使、第26)
より転載しました。

なぞ

1

まちを流れる川には、
自然に流れる川と、目的があって
人がつくる川（用水）があります。
次大夫堀は、どんな目的で
つくったのでしょうか？

- ① 田んぼに水を入れるため
- ② 発電のため
- ③ 飲む水を確保するため

答えは
次ページ下

次大夫堀が作られたのは江戸時代。当時の人々は約8割が農業をして暮らしていました。田畑を耕作して米・野菜を作り、その収穫物や売上げたお金で税金（租税）を納めていました。米の収穫を増やすためには田んぼをひらき、そこに水を引く必要がありました。

多摩川兩岸の村々は台地上にあり、大河川が近くを流れているのに低地であるため水を得ることができません。そこでずっと上流に取水口をもうけて水を引き入れました。それが次大夫堀です。



六郷用水絵図
(喜多見・大蔵・岡本)

なぞ2の答えは ③ 高いところから低いところに向かって流れる

なぞ

2

自然に流れる川は、
どういうところを
流れるかな？

- ① 道に沿って流れる
- ② 木が生えているところをめざして流れる
- ③ 高いところから低いところに向かって流れる

答えは前ページ下

自然に流れる川は、高いところから低いところに向かって流れます。その際、川底の砂利や泥を巻き上げながら下流に運びます。こうした力は、川底の傾き（勾配、傾斜）によって変わるので、泥や砂利が溜まったり水流が一定しないなど、必ずしも人が利用しやすいものではありません。次大夫堀は自然勾配をうまく利用し、ほかの川の水も取り込んで水量を増やし、田にも水が引きやすいようにしながら下流まで水が流れるように工夫していました。



次大夫堀公園内の石組み
されていない用水の流れ

なぞ1の答えは ① 田んぼに水を入れるため

なぜ

3

農業用水は、自然に流れる川と
違う流れ方をします。

どういうところを
流れるかな？

- ① できるだけ低いところから
高いところに流れる
- ② できるだけ等高線上に流れる
- ③ できるだけお百姓さんの
家の前を流れる

答えは次ページ下

農業用水は等高線に沿うようにゆるやかに流れています。次大夫堀の例では、滝下橋緑道の標高は約 21.1m、永安寺付近約 16.5m、岡本公園前は約 15.5m と、数値からもゆるやかに傾斜していることが分かります。用水は人が掘ってできた人工の川ですが、下流に水を流すため自然の勾配を利用しながらも、人が使いやすいように作られているのです。【標高参考・国土交通省国土地理院「地理院地図 電子国土 Web」】



国分寺崖線に沿ってながれる
次大夫堀
(岡本 2 丁目 八幡橋付近)

一回休み

なぜ 4 の 答えは ② 堰 (せき)

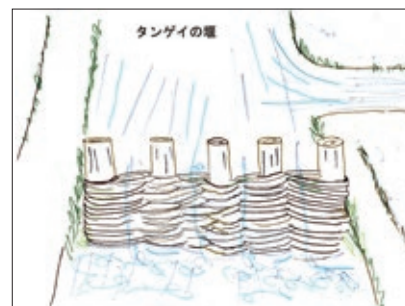
田んぼに入れる水の量を
調整するしくみがあります。
それはなに？

- ① あぜ道
- ② 堰 (せき)
- ③ ダム

答えは前ページ下

用水の水量が減ったりして水位が低下すると、田んぼに水を入れたくても水が入りにくくなることがあります。そのような時のために、用水の水をせき止めて水位を高くし、分水するしくみが堰です。

次大夫堀には分水施設がいくつかありますが、喜多見村内に 2 カ所あったことがわかっています。水をせき止めるため木杭の間に竹やむしろを絡めた、柵のような堰もありました。



撮影地 次大夫堀公園

堰の図解

用水と田んぼの水の高さが同じだと、用水から田んぼに水が入りにくい。そこで、堰で水をとめて用水側の水を高くすると、田んぼの中に水が入りやすくなる。

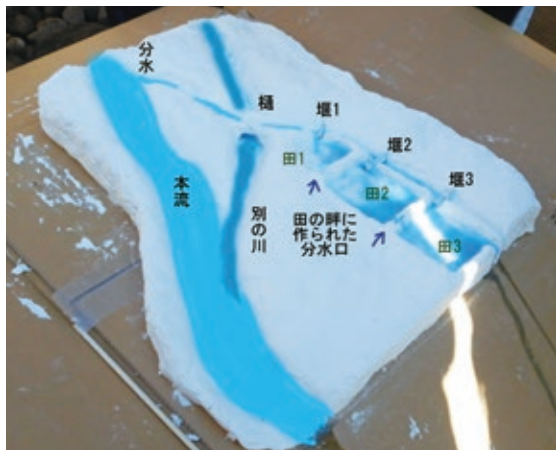
一回休み

なぜ 3 の 答えは ② できるだけ等高線上に流れる

実験しよう

川と用水の違い

田んぼの近くに川の本流があっても、そこから直接水はとれません。今回開いたワークショップでは、水路の模型を使って水の流れるしくみを皆さんと考えました。模型は、川の本流、分水口、分水した川が低いところを流れる川を越えるための樋、田に水を引き入れる堰、上の田から下の田へ水をおくる分水口があります。



上流から水が流れてくると…樋を伝って流れた水が堰1にたまりはじめます。堰で止められた水は田1へと流れはじめます。



どんどん水が流れてくると、田1の畔の分水口から田2、田3へと水がたまり始めます。堰1から堰2へも水が流れています。



すべての田に水が行きわたりました。実際の田では水を張った後、代掻きを繰り返して土の塊をなくしてから、田植えが行われます。田植え後は、水量の調整や草取りなどの管理が行われます。田から水を抜くのは、稲穂が実って穂先が垂れ下がる頃です。

実験しよう 川と用水の違い

次大夫堀と用水を地図で解説

■ 区の境界から内田橋まで

狛江市元和泉の水神前付近で取水した次大夫堀の水は、市内の六郷さくら通り、いちよう通りを通過して、「一の橋交差点」から世田谷通りに沿って流れていました。区内に入ると、滝下橋緑道（喜多見7-25）をへて、世田谷通りの方向へ流れていました。現在は、河川改修の結果川幅の広がった野川となっていますが、次大夫堀は旧入間川の水も併合していました。



撮影地 次大夫堀公園

安藤家と用水

次大夫堀公園民家園内の水路（水田脇）はかつての次大夫堀の流れを復元したのですが、当時まさにこの場所を流れていました。

■ 永安寺から岡本公園民家園まで

次大夫堀の用水は、喜多見から大蔵へと流れ下り、「新井の堰」で余り水を流していました（緑線）。大水のときは堰の板を外しますが、いつもはほとんどの水を次大夫堀に流すようにしてありました。

永安寺付近から次大夫堀は台地に沿って流れていきます。「大蔵氷川神社



奉納絵図」からもその様子がわかります。岡本では、国分寺崖線の一部の堂ヶ谷戸の台地に沿って流れ、喜多見村内での流れとはまた違った風景を作り出していました。

なぞ

5

田んぼに水が流れると、
どんなよいことがあるかな？

- ① 鳥が田んぼの水を飲むついでに、害虫をたべてくれる
- ② 土の中の悪いモノを流して、連作障害をなくしてくれる
- ③ 水がキラキラ反射して、景色がきれいになる

答えは次ページ下

田んぼでは、連作障害が起こらないといわれています。連作障害とは、同じ作物（田んぼの場合は稲）を同じ土地で育て続けることによって、その作物が好む土の中の栄養バランスが崩れ、結果として収量が減ってしまうことです。連作障害を防ぐために、畑の場合は植え付ける場所を変えたりしますが、稲の場合は、田んぼに水が流れることで水の栄養分も吸収し、土の中の栄養はそれほど減ることがありません。また水によって遮断されているので菌や害虫も発生しにくいのです。

★ワーク
障害の
「う」
P24へGO!



田んぼの中を
水が流れる様子
(写真左の稲が育っている
ところが田んぼ)

撮影地 次大夫堀公園

なぞ6の答えは ② 約5m

なぞ

6

次大夫堀の川幅は
どれくらい？

- ① 約 2m
- ② 約 5m
- ③ 約 10m

答えは前ページ下

江戸後期の文化12年（1815）に書かれた『喜多見村地誌書上』によると、「幅3間（5.4メートル）、敷2間半（4.5メートル）」と記されています。敷とは河川敷のことです。



かつての次大夫堀（昭和59年）
堂ヶ谷戸橋より上流を見る



かつての川幅を
思わせる緑道

★ワーク
5mの
「こ」
P24へGO!

なぞ5の答えは ② 土の中の悪いモノを流して、連作障害をなくしてくれる

なぞ

7

次大夫堀の ほかの呼び名は？

- ① かつての川の用水
- ② 世田谷用水
- ③ 六郷用水

答えは次ページ下

次大夫堀は、もともと六郷領（大田区の古い地名）の開墾、開発のために作られたものでした。工事は今から約 400 年前の慶長年間に行われ、幕府の代官・小泉次大夫が指揮したことから、世田谷では「次大夫堀」と呼び親しまれてきました。用水は、世田谷、大田両区だけでなく、多摩川の対岸、神奈川県川崎市（当時は稲毛領と川崎領といった）にある二ヶ領用水も同時に作られました。同じ多摩川の水を引き、同じ指揮官が同時期に開いたこともあって、六郷用水と二ヶ領用水は「双子の用水」と呼ばれています。



多摩川を挟んで、両側につくられた「次大夫堀（六郷用水）」と「二ヶ領用水」

なぞ 8 の 答えは

- ② 筏に組んで川を下り羽田（大田区）まで運んだ筏師たちが、歩いて戻ってくる道だったから

なぞ

8

次大夫堀にかかる二の橋と合流する いかにみち 「筏道」の名の由来は？

- ① 筏道はかつて川で、木を筏に組んで川を下り、羽田（大田区）まで運んだから
- ② 筏に組んで川を下り羽田（大田区）まで運んだ筏師たちが、歩いて戻ってくる道だったから
- ③ 二の橋は、筏のようなデザインだったから

答えは前ページ下

その昔、多摩川の上流の青梅などで伐採された木材は「青梅材」といい、さかんに取引されていました。切り出した材木を筏に組んでその上に筏師が乗り、豊富な水量の多摩川を下って羽田沖まで運んだのでした。これを筏流しといいます。筏師たちは歩いて帰りますが、多摩川沿いの各村の飲食店や宿屋を利用しながら二日ばかりで家路につきました。彼らが歩いて帰った道を筏道と呼んでいます。筏流しは冬から春にかけて行われたようで、多摩川の風物詩でもあったようです。



右側が筏道

なぞ 7 の 答えは

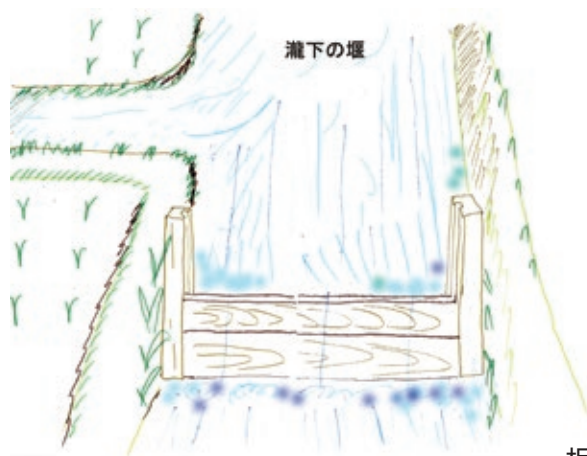
- ③ 六郷用水

堰は板でつくられていました。
「滝下の堰」の板の厚さは
どれくらい？

- ① 約 5cm
- ② 約 15cm
- ③ 約 30cm

答えは次ページ下

以前行われた聞き取り調査では、滝下の堰は「厚さは1尺（30センチ）ほどあり、高さ2～3尺（60～90センチ）位の松板でした。堰板は水を含んでとても重く、一人では持ち上げられないほどで、梃子（てこ）のようなものを使って持ち上げていた」そうです。



滝下の堰のイメージ



板は高さを調節できるようにつくりになっていました。

なぞ10の答えは ③ タンゲイの堰から落ちる水が滝のようだったから

次大夫堀にかかっていた
「滝下橋」の名前の由来は？

- ① 滝下さんの家があったから
- ② ここに滝があったらいい風景になると思ったから
- ③ タンゲイの堰から落ちる水が滝のようだったから

答えは前ページ下

喜多見村を流れる次大夫堀には2カ所の堰がありました。内田堰に水を流す「滝下の堰」と世田谷通り沿いの田を潤す「タンゲイの堰」でした。タンゲイの堰は常に高く張ってあり水量は多く、そこから落ちる水が滝のようであったため、橋の名が滝下橋となりました。



出典：「次大夫堀の昔を語る」



なぞ9の答えは ③ 約 30cm

なぞ

11

かつての次大夫堀の絵があります。
この絵は、流域の
どのあたりを
描いているでしょうか？

- ① 宇奈根
- ② 岡本
- ③ 大蔵

答えは次ページ下

この絵図は、明治7年(1874)に奉納されたもので、江戸時代後期から明治初頭頃の旧大蔵村字本村の様子を描いたものです。中央には、氷川神社、向かって左に永安寺、手前に描かれているのが次大夫堀です。



これが
次大夫堀です

出典：『板絵著色大蔵氷川神社奉納絵図』
(デジタル復原)

なぞ11の答えは
大蔵の「を」
P24へGO!

なぞ12の答えは ① 漬け物石

なぞ

12

大蔵6-1付近の次大夫堀沿いにある
小さなほころの中に、地域の人から「水
神様」と呼ばれ大切にされていた石が
あります。

その石には、
かつてはどんな役割が
あったでしょう？

- ① 漬け物石
- ② 洗濯ものを打ち付ける石
- ③ 大黒柱の基礎石

答えは次ページ下

ほころの中に入っている石には、次のような
いい伝えがあります。

あるとき、この地域で不幸が続いたため、占
いをしたところ「どこかにご神体がある」こと
がわかり、探してみたら近所の家の漬け物石に
なっていた。早速みんなでほころに戻してお祀
りしたということです。

なぞ12の答えは
漬け物石の「じ」
P24へGO!



ほころの中の
三角形の石が
「ご神体」です。

出典：
『世田谷区民俗
調査第7次
報告 大蔵』

今もこの小さなほころがあります。

なぞ13の答えは ③ 大蔵

■ 次大夫堀とは

かつて世田谷区の西、狛江市から世田谷通りに沿って、一筋の川が流れていました。一般に六郷用水と呼ばれ、喜多見、大蔵あたりでは次大夫堀といいます。

これは、降った雨が集まって自然に流れる川ではなく、人の手で掘った人工の川です。江戸時代の初めころ徳川家康が多摩川下流（六郷領・現大田区）の農業を発展させるため、川の水をひくことを命じました。選ばれたのは小泉次大夫で、川の改修など土木工事にすぐれた才能がありました。

六郷領には近くに多摩川が流れていますが、低いところを流れている水を台地の上にある田んぼに持ってくることはできません。そこで、どこから水を引けばよいか考えた結果、現在の狛江市和泉に多摩川からの取水口を作ることになりました。延長23.2kmの大工事です。慶長2年（1597）から測量をはじめて慶長16年（1611）に完了するまで、15年の年月がかかりました。

昔の人々が苦勞して作りあげた用水ですが、1945年には利用が中止されました。

■ 小泉次大夫吉次【こいずみじだゆうよしつぐ】

小泉次大夫吉次は天文8年（1539）駿河国富士郡小泉郷に生まれました。駿河国守護の今川氏に仕え土木技術を得意とした植松家出身で、徳川家康の命で出身地の小泉に由来する苗字を名乗ったと伝えられています。出身地の駿河国富士郡付近は、春

になると富士山の雪解け水が土地の河川に流れ込み氾濫する地で、人々の治水に対する関心の高い地域だったようです。

天正18年（1590）、徳川家康は旧領から関東の八州に領地を移され、入国後、農業生産をより高めるべく未開発地の開発をすすめます。用水土木に詳しい小泉次大夫を代官に任命し、指揮をとらせたのでした。六郷用水の開削は、小泉次大夫59歳から73歳まで晩年の大事業でした。

■ 次大夫堀の改修と用水の利用

開削から100年あまり経った享保年間頃（1716～1736）、次大夫堀は土手の崩落、河床の上昇、漏水などがおこり、通水に障害をきたすようになっていました。この状況を改善するため、多摩郡平沢村（現あきるの市）出身の農政家・田中丘隅（たなかきゅうぐ）の指揮により、大規模な河川改修工事が行われました。

次大夫堀が流れる世田谷領の村々は、用水を使うことは黙認されていただけで、公式には認められていませんでした。しかし享保の河川改修時に、次大夫堀の恩恵をうける世田谷領にもその使用を認めるかわりに、取水制限に応じるよう取り決めがなされました。

かつての次大夫堀は、農家が野菜を洗ったり、衣類の洗濯など様々に利用されました。大正時代には、分水に水車を設けて発電し、付近の4～5軒の家が明かりを灯したりもしました。



〔 六郷用水図 明治時代以降の図 〕



〔 大蔵氷川神社奉納絵図 〕



〔 砧村全図
(昭和7年11月) 〕



〔 鎌田付近の次大夫堀 〕

〔 次大夫堀で野菜を洗う(大蔵・永安寺付近)
出典：『世田谷の古民家写真集』 〕



〔 昭和30年代の次大夫堀
(喜多見5-26付近) 〕



〔 昭和30年代 次大夫堀にかかる
永安寺前の橋 〕

写真で見る 次大夫堀 「今」 past and present

POINT
1
二の橋



〔信号の名前に残る二の橋〕

POINT
2
浦野水車跡



〔「タンゲイの堰」の分水を引き込んで水車を回し、電気を起こしていました〕

POINT
3
滝下橋



〔なぞ10を参照〕

POINT
5
中野田橋



POINT
4
雁追橋



〔信号を渡ると、かつて川だった道が続きます〕

POINT
8
永安寺



各POINTの場所はP2-3に掲載されています。Jidayu-bori



〔園内には昔の田んぼの風景がつくられています〕

POINT
6
次大夫堀公園



POINT
7
六郷用水跡碑

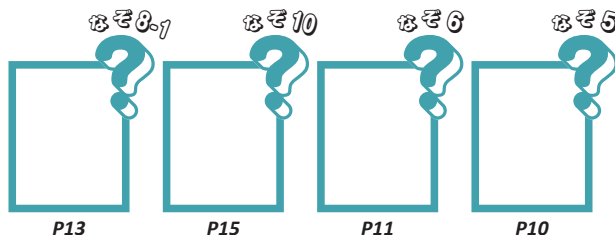
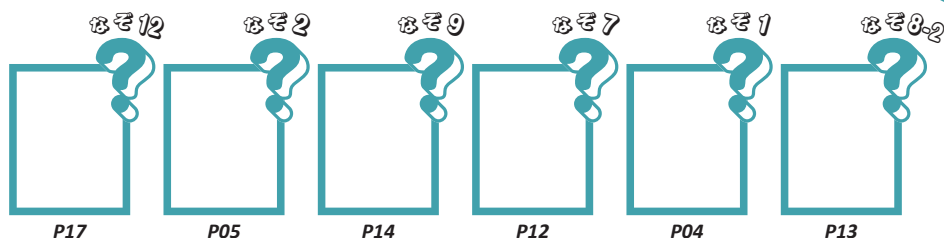


POINT
9
道路脇にある小さな祠
(ほこら)



〔なぞ12を参照〕

なぞの答えに隠れていた
キーワードをつなぎあわせよう。
ミッションが浮き出てくるよ！



なぞなぞウォーキング2 かつての川 ～次大夫堀～ Jidayu-bori

発行 令和2年3月

世田谷区教育委員会事務局 生涯学習・地域学校連携課文化財係
TEL 03-5432-2726 FAX 03-5432-3039

編集協力 場所づくり研究所プレイス